

<< 静岡大学学生歌プロジェクトによる学生歌「われら若人」 動画関連新聞記事 >>



このたび、静岡大学学生歌プロジェクトによる学生歌「われら若人」のミュージックビデオと、4カ国語翻訳版歌詞の発信が静岡新聞に掲載されました。

このプロジェクトは、静岡大学や地域の魅力が盛り込まれた学生歌を発信することをきっかけに静岡大学の伝統や繋がりを見つめ直そうと2019年に当時言語文化学科3年佐々木勇輝さん（2021年卒）が発起人となり、現在も静岡・浜松両キャンパスの学生有志で様々な活動が展開されています。

学生歌の歌詞翻訳企画では言語文化学科の学生が主体となり、同学科の教員も協力し、学生歌「われら若人」のもつ魅力にのせて、本学部の国際色豊かな学びも広く発信されることとなりました。取材当日には、言語文化学科卒業生であり立ち上げからプロジェクトを支援されている木下学さん(1997年卒)も同席し、取材くださった記者の国本啓志郎さんも偶然にも法学科卒業生(2019年卒)という静岡大学同窓の繋がりも感じられる記事掲載となりました。

なお、学生歌のミュージックビデオは、卒業式などでも紹介され、静岡大学の公式ホームページに掲載されています。

静岡大学公式ホームページ 学生歌「われら若人」紹介ページ リンク

<https://www.shizuoka.ac.jp/campuslife/wakoudo/index.html>

静岡大学生歌を翻訳し、撮影した佐々木勇輝さん（中央）ら
＝28日、静岡市駿河区の静岡大静岡キャンパス

静大学生歌 世界に届け

動画制作、配信

静岡大の学生有志が同大の学生歌「われら若人」を英語、フランス語、ドイツ語、中国語の4カ国語に翻訳し、ミュージックビデオに字幕を載せて動画投稿サイト「YouTube」で配信を始めた。動画や歌詞を通じて静岡大や静岡の魅力在海外に発信する狙い。

はじける世代を深く
DeePop
ディーポップ

学生歌は1962年、大学祭「静大祭」のテーマ曲として誕生したとされる。同大はキャンパスが分かれているため、「われら未来を指す」「われら真理を求め」など学生の団結を願うメッセージが盛り込まれている。「富士の高嶺」や「潮満ちくる浜名湖」など本県の風土にちなんだ歌詞もある。人文社会科学部を3月に卒業した佐々木勇輝さん(22)が1年生の時、キャリア教育の講義で交わった卒業生から、学生歌の存在を知り興味を持ったのがきっかけ。学生にもあまり知られていない学生歌に注目してもらおうと「静岡大学生歌プロジェクト」を立ち上げた。佐々木さんは「学生同士のつながりを大切にしたい。静大の伝統を世界に伝えたい。学生生活に、学生生活を充実させるヒントを歌から探してほしい」と願う。(社会部・国本啓志郎)

学生有志4カ国語に翻訳

▲静岡新聞 2021年3月30日付
夕刊3頁
(静岡新聞社編集局調査部
記事利用許諾済)